



浜松観光ボランティアガイドの会

2023年度新人養成講座（後半）

【第4回・2月5日】本日の座学は研修部の内山達夫さんの「浜松あれこれ・モノ」です。先ず市の花「ミカン」市の木「マツ」市の鳥「ウグイス」の話から始まり、味覚としては「うなぎ」「餃子」（2月5日に2023年の購入額は①浜松②宮崎③宇都宮でした）海産物は「うなぎ」「シラス」「のり」「すっぽん」「ドーマンガニ」「浜名湖カキ」農産物は「三方原ジャガイモ」「白玉ねぎ」「三方原大根」「お茶」等の紹介がありました。

また、日本一と誇れる物として①ガーベラ②ほおずき③エシャレット④三ヶ日みかん⑤管楽器⑥鍵盤ハーモニカ⑦乾パン⑧ゆかた⑨すっぽん⑩タイヤチェーン⑪光電子増倍管⑫座敷蓆⑬マーキングペンのペン先⑭自動車用内装材等があります。日照時間の長さはトップクラスです。太陽光発電の件数、太陽光発電の導入容量は共に1位です。

休憩後、席の前後でのアイスブレイクの後「浜松あれこれ・ヒト」は研修部の原田隆史さんのお話です。先ずガイド活動は「浜松の魅力」の発信です。その魅力は浜松の人が築き上げてきた「財産」でありそれを伝えていくのが重要な活動です。我々が良く使う「やらまいか精神」は「やってやろうじゃないか・やってみよう」です。

ご案内のように1603年の江戸幕府の成立から明治になるまでの265年間浜松藩は12家22代に渡りいろいろな大名の支配下で「やらまいか精神」が醸成されたのではないかと。

【第6回・2月26日】いよいよ座学は今回が最後です。研修部の前原福子さんの「浜松在城期の家康」です。1542年誕生、1568年遠江に侵攻、1570年29歳の時、曳馬から浜松へ改名そして移住。45歳までの17年間の浜松での年譜を見ると「どうする家康」の連続です。浜松以降の30年間もやはり危機の連続でした。改めて大河ドラマの題名が納得できます。新人養成講座受講生の皆さんの内、19名が入会の申し込みをしてくれました。

広報部 阿形守康（東ブロック）

最後の「井上家」の時代に綿の栽培が奨励され遠州紬（つむぎ）の生産が今日の浜松の始まりでした。遠州織物の母「小山みい」（1821～1892）の存在が「自動織機」の発明から輸送機器へ発展して来たことを忘れることはできません。それ以外にも多くの忘れられない人たちがいますが枚挙できません。私見ですが、点字の石川倉次（1859～1944）、テレビの高柳健次郎（1899～1990）、胃カメラの杉浦睦夫（1918～1986）の3人も忘れられません。

【第5回・2月19日】本日の座学は「家康の散歩道」の前半です。まず、研修部の頼母木敬祐さんの「城内・城下ルート」です。浜松駅からお城までは、徒歩20分ぐらいで羊歯前立（しだまえだて）を取り付けた街灯を見ながら行けます。

「家康の散歩道」のリーフレットの①の「浜松城」から⑫「家康公鎧掛（よろいかけ）松」までの全長6.3キロ徒歩1時間半の紹介でした。「講座の中でここだけは忘れてほしくない事」という26期生の質問に、研修部の杉本忠久さんがガイド活動の中で先輩の話参考にした質問したりしながら勉強してくださいと答えていました。

「家康の散歩道」の後半は「合戦ルート」、研修部の益田啓子さんが担当でした。⑬「犀ヶ崖資料館」から⑳「太刀洗の池」までの「三方ヶ原合戦」関係のお寺がメインのコースで、全長5.8キロ徒歩1時間15分の紹介でした。



鈴木会長を中心に受講者の皆さん

浜松・浜名湖ツーリズムビューロー 優良従業員表彰

浜松・浜名湖ツーリズムビューロー主催の令和5年度観光関係優良従業員表彰式が1月29日(月)にホテルコンコルド浜松にて開催されました。賛助会員企業・団体から9団体24名の方が表彰され、当会からは伊藤道代さん(東ブロック)、鈴木猛二さん、鈴木延夫さん(南ブロック)、三田千鶴子さん(西ブロック)の4名が表彰されました。表彰式では齊藤薫理事長から表彰状と記念品が贈呈されました。4名は2010年度に入会した12期生で、これまで長年に渡って当会の運営に尽力していただきました。皆さんからは「長年の活動が評価されて、とてもうれしいです。」との感想がありました。

その後、会員の集いがあり、浜松市やらまいか大使のYU-YAさんによる講演会「ブレイクダンス世界2連覇ボディアーティストが伝えるブレイクダンスの世界」がありました。YU-YA(大柳豆勇也)さんは1990年浜松市生まれで2015年、2016年に日本人初のワールドカップで2連覇した経歴をもち、現在はダンススタジオを経営していて、全国で活躍するダンサーを育成しています。やらまいか大使として「おもしろい浜松、柱にな



表彰された皆さん

鈴木延夫さん、鈴木猛二さん、伊藤さん、三田さん

るヒーローを育てたい」との抱負を語っていただきました。ブレイクダンスは2名の対戦で、1分間のパフォーマンスで勝敗を判定します。この1分間は驚くことに無呼吸でパフォーマンスすることです。その後、懇親会があり余興としてYU-YAさんのパフォーマンスが披露されたようです。

事務局 春日康治(西ブロック)

次回に期待

いかまいか 佐鳴湖!

「富士山の日記念ウォーク」の魅力

事業部が「富士山の日」に向け、準備を進めてきた佐鳴湖を巡るウォーキングは雨天により中止になりました。佐鳴湖の歴史・文化と自然を満喫する企画でした。2月5日(月)に行われた下見の研修資料を基に今回のウォーキングの魅力を紹介します。

1 石仏の秘密

サンクンガーデンではこの地で亡くなった真田信繁の九女「阿安姫」の慰霊のためと伝わる32体の石仏が見られます。家臣松澤彦二郎とその末裔が守り継いだ両光寺(富塚町)の「姫塚」の言い伝えもありロマンを感じます。

2 ニホンアカガエル産卵池

1月下旬の南岸低気圧が通過した夜にニホンアカガエルの産卵が行われました。春の目覚めを告げる卵塊(らんかい)です。

3 静岡県で一番低い根川山

標高32m、県で一番低い山。かつてこの辺りに「根川山遊園」があり、高さ2.5mの台座上に3mの弘法大師像があったとのこと。

4 伊能忠敬の碑

大日本沿海輿地全図(だいにほんえんかいよちぜんず)作成の途中、伊能忠敬は佐鳴湖で測量を行いました。当時の測量日記と共に記念碑の建てられた経緯を紹介する予定でした。

5 佐鳴八景碑

江戸時代の文学者、入野村の竹村広蔭(ひろかげ)が佐鳴湖八景を選び歌に詠みました。それが歌碑として岸边に建てられています。

6 佐鳴湖岸から野鳥の観察

佐鳴湖には、ミサゴやカワセミなどの野鳥の観察ポイントがあります。

7 小藪

NHKの大河ドラマでも重要な舞台となった場所。小藪は築山御前が上陸し、野中三五郎に討たれた地といわれます。太刀洗の池、御前谷辺りも、当時の地形を想像しながらぜひ訪れたい所です。

8 源範頼の別邸御茶屋跡

「御茶屋橋」の名前の由来は、源範頼の別邸御茶屋がこの辺りにあったことによります。石碑も残っており、ボランティアガイドの会作製の説明板もあります。

広報部 馬淵 豊(南ブロック)



時計塔付近から見える富士山

会員の交流広場

初めての1年間を振り返って

初めての仕事は、浜松まつり期間中のまつり会館担当でした。その後は、浜松城などでの案内を手探りしながら担当してきました。近隣の方々のみならず県外・外国の方々と話ができ、こちらの説明だけでなく色々な話を聞くことで大きな収穫になりました。ブロックのミニ研修では、「家康家臣団屋敷跡巡り」の幹事を担当して、資料まとめなどで大変勉強になりました。

まつり会館での小学生の課外授業の説明をした事が、印象深い出来事の一つです。話を熱心に聞いてもらい、質問をしてくれ、予定時間はすっかり過ぎてしまいました。あるお子さんのおじいさんが作った凧があるとのことでしたが、当日には見つけることができませんでした。別の日にその凧を見つけ、後日学校に連絡したところ、お子さんが大変喜んでくれたとのことでした。



浜松まつりにて

そういった事があると、ボランティアをしていることに感動と喜びを覚えます。今後も、浜松を訪れる観光客の方々に楽しんでいただけるよう、勉強しながら楽しんでいきたいです。

中ブロック 鈴木孝久

会員の交流広場

復活！5年ぶりの稲荷大祭

2月11日(日)建国記念日、「萱垣(かやがき)稲荷初午大祭」が5年ぶり完全復活し、下池川町の真徳山天林寺にて盛大に開催されました。



山門前の様子

天林寺の稲荷大祭は2007年から始まったそうです。宗教の枠を越えて多くの皆さんに楽しんでほしい、街中の寺という立地をいかし、出店者とお客さんが楽しく交流する場を作り、多くの人に笑顔になってほしいという思いで開催されているそうです。実際お祭り当日は朝早くから境内に出店者が準備に集まり、いつもの静かな雰囲気とは



たくさんのお店が並ぶ境内

大きく変わり、とてもにぎやかな様子でした。久しぶりの開催を出店者もお客さんも楽しみにしている気分がじわじわと伝わってきました。

久しぶりの開催を出店者もお客さんも楽しみにしている気分がじわじわと伝わってきました。

稽古をさせていただいています。宗諦先生率いる弟子一同が、先生のご指導の下、稲荷大祭で初午茶会を行うのが恒例です。今回は天真閣という大広間で、誰でも気軽に茶を楽しむ薄茶席を用意しました。一回最大20名様に入らせていただけるように、椅子を組み立てたり、お茶碗を用意したりと前日から準備を頑張りました。



私も一席お点前を披露

お茶は椅子に座る「立礼」というカジュアルな形でしたが、恐る恐る入ってこられる方も多かったです。巖邑(がんゆう)堂のお菓子と抹茶、素敵なお道具の数々を見て、皆さん楽しんでおられました。最後は恒例のお餅投げがあり私たちも参戦！一番後ろでウロウロしていただけたのに、たくさん拾うことができました。また来年も楽しみです。



みんなで必死にお餅拾い

南ブロック 松沼素子

会員の交流広場

もう一つのボランティア活動

私は、この観光ボランティアガイドを始める少し前、65歳で仕事を辞めた時、さて明日から何をしようかと思い巡らしており、そうだ！これからは自分の好きな事をやろうと考え、何か面白いことがないかと探していたところ、ある時新聞広告でカルチャースクールのSBS学苑のページに目が留まりました。その中に《ドジョウすくいに挑戦》という講座を見つけ、「コレだ」と思い、早速申し込みをしました。毎週水曜日開催の6回コースでした。



銭太鼓のお姉さんたち

先生は島根県出身の方で現在は浜松在住との事でした。ドジョウすくいはご存知のように、島根県の民謡【安来節】に合わせて踊るもので、ドジョウを取る仕草を面白おかしく表現したものです。この講座で出会った先輩にボランティア活動もあ

るから一緒にやらないかと誘われ、活動するようになりました。

ボランティアは浜松市社会福祉協議会に【安来節保存会】として登録しており、【銭太鼓】のお姉さんたちと共に、主に高齢者福祉施設を回っています。



ドジョウすくいを踊る筆者

2023年度は『すずきデイサービス燦(さん)』『元気はつらつ教室竜西』『元気はつらつ萩原』で披露しました。また、その他の活動として私と以前当会の会員だった金澤さん(北ブロック)と一緒に、クイズ・折り紙・健康体操・漫才等で楽しんでもらうこともやっています。

これからもう少し活動場所を増やしていきたいと思っているので会員の方で、紹介していただける施設等ございましたら連絡をお願いします。スケジュールが空いていれば伺います。(笑)

中ブロック 長谷川幸夫

2月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。またこの3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター(浜松駅構内)」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

《浜松城》		16日 金	ユーラシア旅行社	11名	
4日 日	川根町地名地区生涯学習	39名	18日 日	山梨参松会	11名
	津久井商工会役員	13名	《浜松まつり会館》		
16日 金	ユーラシア旅行社	11名	11日 日	グスキン久米川支部	12名
23日 金	長野飯田Nプロジェクト	33名	17日 土	富洲原地区連合自主防災隊	20名
《犀ヶ崖資料館》		24日 土	常安消防団	20名	
7日 水	山梨恵林寺総代会	11名			

はままつ案内人会報 260号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会
 〒430-0946 浜松市中央区元城町100-2 (浜松城内)
 TEL 053-456-1303
 メールアドレス mail@hama-svg.jp
 ホームページ http://www.hama-svg.jp/



家康公ゆかりの地

はままつ案内人

検索